

入試方式	科 目	学 部	学 科	専 攻	
面接・小論文方式	小論文	家政学部	食物栄養学科		
受験番号	氏 名			採 点	

下の表は、我が国の生鮮魚介類の1人1年当たり購入量及びその上位品目の購入量の変化を表したものである。
この表をもとに、以下の問1から問6まで答えよ。

生鮮魚介類の1人1年当たり購入量及びその上位品目の購入量の変化								
1人1年当たりの購入量(g/人年)								
	生鮮魚介類 全体	サケ	マグロ	ブリ	エビ	イカ	アジ	サンマ
平成2年 (1990)	13,287.60	472.2	845.5	652	938.2	1,486.00	730.3	653.1
平成6年 (1994)	13,696.00	755.6	1,015.90	583.6	1,004.00	1,367.70	747.3	673.5
平成10年 (1998)	13,627.50	907.9	1,068.90	590	748.6	1,206.30	731.1	641.1
平成14年 (2002)	13,703.70	1,062.70	1,100.00	621.6	696.6	1,141.70	575.9	702.5
平成18年 (2006)	12,183.20	931.6	899.4	653.2	633.9	963.6	545.6	719
平成22年 (2010)	10,995.80	948.5	791.9	677	636.2	835.9	456.6	546.9
平成26年 (2014)	9,440.60	850.2	763	640.3	438.9	688.1	348.2	515.5
平成30年 (2018)	7,874.20	841.3	647.3	542.6	452	387.2	312.8	380.9
令和4年 (2022)	6,706.50	785.9	555	465.6	423.7	369.4	238.1	90.7

令和4年度水産白書より抜粋

- 問12022年の生鮮魚介類全体の購入量は、1990年の購入量に比べて何％であるか。四捨五入により少数第一位まで求めよ。
- 問2表の7種の魚介類のうち、無脊椎動物を選んで示せ。
- 問3サケは成魚の期間は海水で生活する一方、稚魚の期間および産卵の際は淡水で生活する。海水と淡水の環境下におけるそれぞれの体液濃度調節機能について、「浸透圧」という言葉を用いて説明せよ。
- 問42022年の購入量が1990年に比べて最も少なくなった魚介類はどれか。またその理由について考察せよ。
- 問5サケ、マグロ、ブリは、減少傾向であるが全体を通して比較的安定して購入されている、この理由について考察せよ。
- 問6魚介類は健康に寄与するといわれる。その理由を食品学・栄養学的に説明するとともに、今後の食生活において我々はどのように魚介類と接していけばよいか。意見を述べよ。

2024年度 共立女子大学 総合型選抜試験 解答用紙

No. 2

入試方式	科 目	学 部	学 科	専 攻	
面接・小論文方式	小論文	家政学部	食物栄養学科		
受験番号		氏 名			採 点

[illegible]

2024年度 共立女子大学 総合型選抜試験 解答用紙

No. 3

入試方式	科 目	学 部	学 科	専 攻	
面接・小論文方式	小論文	家政学部	食物栄養学科		
受験番号		氏 名			採 点

[illegible]